



「校長先生、今日のこと、紙（磨光）に書いてください。」

「この写真、磨光に載せてください。」

先日の陸上記録会の時、何人かの子どもから、このような声をもらいました。保護者の方だけではなく、子どもたちも磨光を愛読してくれていることに感謝し、ブログで書ききれなかったドラマをお届けします。

[10/10 ブログ記事はこちら→](#)



「磨け 光れ 友と」再び

■みんなの力で

この日、6年女子の4×100mリレーでは、1人が体調を崩して欠席していました。その代わりに出場することになった子の緊張感はいかばかりだったことでしょう。おそらく正選手ほどにはバトンパスの練習もできていなかったはず。そこを乗り越えて、4人はバトンをつなぎ切りました。

その裏には、欠席した子の思いも、さらには、この日、リレーの出番はなくても一生懸命応援した、6年男子や5年生のチームの補欠選手の思いもあります。その子どもたちの思いも忘れてはなりません。

■悔しさを乗り越えて

嬉しかったのは、これまでの大会で、自分のレーンを踏み越えてしまって失格になったり、宿泊学習の疲れで思うように体が動かさず悔しい思いをしたりした子どもたちが、この日、自分で納得のいく結果を出せたことです。

「子どもたちには無限の可能性がある」とは思いません。何にでも思うようになれるとは、子どもたち自身も思っていないでしょう。それでも、子どもたちには、豊かな可能性がある。私たち大人よりもずっと。その豊かな可能性を信じて、できないかもしれない、失敗するかもしれないことにこそぶち当たってみる。それを「挑戦」というのでしょうか。

陸上に限らず、これからもうまくいかないことはいくらでも出てきます。それでも、「次はうまくいくんじゃないか」「次こそは乗り越えてやるぞ」、そう思えるようになるための一つの経験として、この陸上記録会があればいいと思っています。

■そして、成長する

おもてに現れた姿だけを書き綴りました。でも、子どもたちは、もっと複雑にいろいろなことを思い、不安になり、緊張し、それでも心を奮い立たせて、この日に臨んだのでしょうか。揺れ動いた心の振幅の分だけ人間の幅が広くなり、抱えてきた深い思いの分だけ人間に深みが増します。

今回の学校だよりを書くに当たり、これまでの陸上大会のブログを振り返ってみました。6月23日の、初めての陸上大会のブログ。7月6日のブログ。ほんの数か月前なのに、その写真に写っている子どもたちは、あどけなく見えます。この数か月で、ずっとたくましくなりました。

体も、そして心も。



【6/23のブログ】

【7/6のブログ】